

令和6年度第5回 田原本町総合教育会議 会議録

日 時 令和6年12月20日（金）午前10時30分～午後11時44分
場 所 田原本役場 201会議室
出席者 田原本町長 高江啓史
教育長職務代理者 眞田和則
教育委員 岡本春江 梶井歌世 山田育弘
教育長 山田忠志
事務局 町長公室長 中辻勇
教育部長 森淳一
教育総務課 課長 森川理恵
指導主事 金澤一裕 福辻智実 中山靖雄
課長補佐 奥谷知日朗
生涯教育課 課長 小田成寿
文化財保存課 課長 吉村浩至
欠席者 なし
傍聴者 なし
議 題 （1）田原本町教育大綱について

町長

本年度第5回目の総合教育会議を開催する。年末にもかかわらずお集まりいただき感謝する。教育大綱については、1年間をかけて皆さんのご意見をいただきながら進めてきたところである。今回、素案を提案する。

○議題1 田原本町教育大綱について

町長

教育大綱については、できる限りシンプルにしたかったのと、他にもあるような“まちの将来を担うこども達の育成”よりも、こども達を中心とするところに重点を置きたく、手直しをしていたため配布が遅れた。申し訳ない。簡単に内容のご説明を申し上げる。

（町長説明）

岡本委員

基本理念の「強く生きる」の「強く」に違和感がある。自分がそんなに強くないと思っている子もいる、いろんな人がおられ多様性を認め合う中で、強く生きるという表現に引っかかりを感じる。もう少し良い言い回しがあるのではないか。

町長

前回の説明で夢を強調していた点に悩んだ。夢を持つことは個人の自由で押し付けなくてもよい。大人も含めてそれぞれが自分らしく生きられれば良いと考える。自己肯定感や自己効力感を基礎にした部分を表現し、だいたい表現を引いたつもりではあったが、「強く」

という表現については再度考える。

押し付け感があってもいけないと思う。前回の議論や事前にいただいた意見は反映しているつもりである。ただ現時点で固まっているものではないので、この場で意見を言っていいただければと思う。

眞田委員

「This is me」は何か元になったものはあるのか。また、教育大綱の配布はあるのか。

町長

「This is me」は小学校6年生で最初の自己紹介の単元名でもある。広報において大切なのはこれに紐づく具体的な話である。具体的な事業化や予算化と合わせて進める必要がある。住民への周知には、このまま載せるかは別として広報誌等に掲載する際は今後の具体的な取り組みを併せて示す必要がある。特に学校の先生方には、各校で説明を行い、理解を深めてもらうことが重要である。

眞田委員

教育大綱は田原本町の重要な柱であり、学校が中心ではあるがそれだけでなく、地域住民や役場全体が協同で育てていくという町長の思いを反映したもの。学校や教育委員会だけに任せず、同じベクトルで地域全体が手を取り合い、将来のこども達のために一緒に取り組むものと考えてる。

理念を示したらよいのだが、内容を盛り込み過ぎのような気がする。また保護者や地域の人々にとってわかりにくい言葉が多くイメージしにくいのではないか。こどもたちの思いや先生の思いをもっと簡潔に表現し、シンプルでわかりやすいものにすることが望ましい。先生たちの思いの項目は必要だろうか。極端に言えば先生方は田原本の子たちと接して、こども達の瞳が輝く瞬間を共有したいと思っていると思う。

町長

先生方の意見の記載は必要と考える。ただ書き方見せ方は工夫する。大綱に書いたことができていないのだとしたら、学校教員は当事者ではあるがその責任は我々や教育委員会にあると思う。教員とともに一緒にやっていきたいからこそ大綱があるわけであり、教育委員会や町長部局が上から目線で書くことは避け、先生方と目線を合わせるからこそ私の一番の思いである。先生と一緒に取り組む姿勢を持つことが大切だと考えている。

分かりにくいというのはおっしゃる通り。余計な文章は排除し割り切ったため。眞田委員のおっしゃる三宅町の例が良い点は、平易な言葉と割り切りである。現在の提案がわかりにくいのは、文脈を排除して見やすさを優先しているためである。広報などで伝える際には、これだけでは分かりにくいので、メッセージや解説を加える必要がある。

岡本委員

項目を簡素化してまとめ、わかりやすい言葉を使うと、見る方は多くなるだろう。

教育委員会だけでなく役場全体で大綱作成に取り組んでほしい。この大綱ができた段階で、各課に具体的に何ができるのか回覧して意見を募ったらどうか。

町長

よくある計画行政のように、作って終わりにならないようにすることが重要である。住

民や現場の先生方への説明や広報では、実現方法を具体的に示す必要がある。学校には、大綱に基づいてどのような教育を行いたいかを是非、提案してもらいたい。住民への周知の際には具体的な内容を含めて提示することが望ましいと考えている。

眞田委員

教育大綱に基づいて具体的な取り組みを進めてほしい。以前の不登校対策のように、各課が協力して進めることで、より効果的に進むと思う。役所内の壁を超えて、施設を共有しながら連携を模索することが理想に近づく。町長が新しい教育大綱を示し、協力を呼びかけてもらいたい。

町長

見せ方をシンプルにする。プロセスにおいて、先生方の意見を取り入れ参画していると感じてもらうことが大切であり、教育委員会は可能な限り先生の意見を反映し、具体的な方向性を示してほしい。行政が意見を聞いて何も反映しないことは避けるべきであり、柔軟に対応していくことは課題と一致している。

岡本委員

インクルージョンやイノベーションといった言葉がすんなりと入るように感じられないため、よりわかりやすい表現にすべきである。教育行政や社会福祉の観点からも、シンプルに伝えることが重要である。横文字や難しい言葉は避け、柱となる部分は簡単な表現にすることで、理解しやすくしてほしい。

町長

言葉は難しい。包摂的だとか多様性、主体といった時点でこども目線から離れてしまう。行政的な言葉が出たときに読むのをやめてしまいかねない。改革で前へ進むための新しい発想で、一言で表せられないか。とても平たく言えば、インクルージョンはみんなで仲良く、イノベーションは直感やひらめき、だろうか。検討する。

榊井委員

これらの言葉を表すマークを、もう少し検討してもらえればと思う。

社会福祉協議会のファミリーサポートセンター事業は、子育てにおいて重要な役割を果たしていると考えている。教育大綱はこどもだけでなく地域の住民全員が関わっているということ、高齢者も皆がこども達を支えているのだと感じてもらうことが重要だ。ただ、書きたいことが増えていくのもよくないし、難しい。

山田委員

自己肯定感がよく使うが自己効力感はまだ聞いたことがなかったが、説明を聞いて並び書かれているのがとても良い表現だと思う。

町長

これは学校を訪れた際に先生から教えていただいた。自己肯定感は大事であるが、行きすぎると自己中心的になってしまう。自己効力感には「自分をそのまま受け入れること」と「自分ならできるという自信」の両方が含まれるが、これらは本来別々のものである。したがって、それぞれを並列して表記した。聞きなれない言葉かもしれないが私のメッセージ内でカッコとして自己効力感を表すか。他市の例のように解説として入れたいものもあるが、

多くの方に読んでもらうためには文字を多くしたくない。

岡本委員

これはこれでいいかもしれない。ただ、小学校や中学校向けには1枚にまとめたものを用意しても良い。

梶井委員

教師への質問で「こどもたちが直面する課題は何か」という表現はどうだろうか。先生として何をしたいかが重要であり、保護者が最も関心がある部分だと思う。保護者が、先生はどう思っているのだろうかと興味を持ち協力したくなるよう、訴えたいところだが優しい表現をお願いしたい。

町長

誤魔化したくはない部分だが、表現は優しくないかもしれないので、言い換える必要がある。

教育長

本当に難しい課題である。難しいことに町長はあえて取り組まれている。私が町長にお話に行った際も「先生っぽい」と言われたこともある。今の議論にも金言的な言葉が出てきて、それをわかりやすい言葉は何かと考えるが、割り切りや切り取り方の主体で十人十色になって難しい。岡本委員がおっしゃった各課への問い合わせは、町長がよくおっしゃっている自分ごととして捉える、につながっており、具体的な施策が伴って意義がある。

町長

様々なご意見ありがとうございました。議題は以上となる。全体として、削れる部分や、わかりやすく優しい言葉で表現できる部分を改善したいと思う。長い時間ありがとうございました。

午前 11 時 44 分 終了